

表-1 景観計画区域のゾーニングの考え方と地域区分の検討

景観計画区域		基本理念		地域区分の検討 (地域区分図 (修正))				景観形成方針の検討	
景観特性 (基本構造図、景観特性図)				ゾーニングの概要				景観形成方針のキーワード	
景観要素		景観の空間構成		ゾーニングの概要	色彩指針		地域区分	区域の現状と課題	景観形成方針のキーワード
白馬村の基本構造					西	中			
<p>●「自然環境」の景観</p> <ul style="list-style-type: none"> 白馬連峰と西側前山の織りなす山岳景観 東山の穏やかな里山景観 水の景観 <p>●「生活文化・歴史」の景観</p> <ul style="list-style-type: none"> 白馬盆地の広がる農地 田園と緑の背景に囲まれた集落 千国街道、塩の道 魅力的な小路空間 役場、学校、スーパーなど生活の拠点となる市街地 <p>●「観光産業の景観」(登山・スキーの観光、リゾート開発により形成された景観)</p> <ul style="list-style-type: none"> 白馬八方尾根スキー場エリア エイブル白馬五竜スキー場エリア Hakuba47 ウィンタースポーツパークエリア 白馬岩岳マウンテンリゾートエリア 白馬さのさかスキー場エリア <p>●「道路沿・河川」の景観 (交通の発達により生まれた商業集積の景観・景観軸)</p> <ul style="list-style-type: none"> 白馬駅前通り及び周辺道路沿いの景観 国道148号の沿道 白馬連峰を望める道路の景観 	<p>●景観の境界 (縁取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> 白馬連峰・前山・東山の山並みの稜線 山裾斜面の緑の縁取り <p>●面的なひろがりを感じる景観</p> <ul style="list-style-type: none"> 広がりを感じる田園の景観 <p>●まとまりや集まりのある景観 (集積)</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物が集積する市街地 スキー場の旅館街、緑に囲まれた別荘地 田園や山林に囲まれた集落 <p>●奥行やつながりの感じる景観 (軸、連続)</p> <ul style="list-style-type: none"> 良好な景観が望める道路軸 豊かな水辺空間の河川軸 <p>●方向や目印となる景観 (シンボル景観)</p> <ul style="list-style-type: none"> シンボル景観となる構造物 シンボル景観となるスキー場や山頂 	<p>●自然公園法など法的規制</p> <p>●建物現況や土地利用</p> <p>●住民協定などの取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中部山岳国立公園特別地域 	-	1	山岳地域	<ul style="list-style-type: none"> 白馬村の象徴としての白馬連峰 	<ul style="list-style-type: none"> 中部山岳国立公園の優れた山岳・水系景観の保全 自然公園法を遵守した取り組みを継続 	
			<ul style="list-style-type: none"> 周辺が山林に囲まれた集落がある勾配のあるエリア 中部山岳国立公園特別地域普通地域 	-	2	山林集落地域	<ul style="list-style-type: none"> 景観の境界 (縁取り)、背景となる山林 (緑) 青鬼地区 (重要伝統的建造物群保存地区) など特徴的で印象的な農村風景を形成している地区の存在 廃業したスキー場、空き家などあり 	<ul style="list-style-type: none"> 田園地域と接する山麓斜面 (稜線) を保全 例えば太陽光発電、電波塔設置への対応 白馬村の農村風景を継承した家並みの創造 (伝統的な建物、使いなど) 	
			<ul style="list-style-type: none"> 農地が多い平地のエリア 農地と一体化した低層建物のある集落 	-	3	田園地域	<ul style="list-style-type: none"> 農地と一体化した低層建物のある集落 広がる田園に視界を阻害する建造物や広告物は少ない 集落は山林 (緑) を背景に集積 集落や民宿街は伝統的と近代的建物が混在 集落には塩の道沿いに歴史的景観資源あり 	<ul style="list-style-type: none"> 田園の広がりや山並みの眺望を阻害する建造物や広告物の抑制 白馬村の農村風景を継承した家並みの創造 (伝統的な建物、使いなど) 	
			<ul style="list-style-type: none"> 都市機能誘導区域 (白馬駅周辺地区) 中央玄関口であり、宿泊施設など商業施設の集積する範囲 陸屋根の2~3階ビルが集積 商業施設立地など開発に期待が持てる 	-	4	中心市街地	<ul style="list-style-type: none"> 駅からの白馬三山は村の第一印象となる景観 駅周辺には陸屋根の2~3階のビルが集積、一部山小屋風のデザインなど統一感に欠ける アウトドアショップの出店など開発に期待が持てる 	<ul style="list-style-type: none"> 世界的なりリゾートタウンとしての村の顔・玄関口としての景観形成 都市的土地利用を推進すべき区域 特定外観意匠の基準は明確に記し、特殊なものは抑制 	
			<ul style="list-style-type: none"> ペンション、別荘など比較的新しく開発された宿泊施設中心のエリア 商業施設立地など開発に期待が持てる 	-	5	観光地域	<ul style="list-style-type: none"> 冬季以外は街並みが閑散とした印象 (シャッター、駐車場、新旧の建物) スキー場前は3~4階の宿泊施設点在 (特に八方尾根に集積) 観光市街地と観光の街は別印象 (緑の配置・量) 近年の社会情勢を受け、別荘地への移住増加への対応 各協定の調整が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 世界的なりリゾートタウンとして特徴的で良好なまち並み景観を誘導 旅館、ホテル、飲食店などの宿泊施設が集積するエリアなどは建物の意匠・形態 (積雪を考慮した配置) を誘導 	
			<ul style="list-style-type: none"> スキー場として利用されているエリア (ゲレンデ、ゴンドラ、乗り場) 	-	6	スキー場地域	<ul style="list-style-type: none"> スキー場の広がり、ゴンドラや商業施設などの関連施設あり 白馬の目印、シンボル景観となる構造物 	<ul style="list-style-type: none"> 白馬のシンボルとなるスキー場景観 グリーン・ウィンターシーズンの景観を考慮 自然環境と調和した開発の誘導 	
			<ul style="list-style-type: none"> 国道148号 村内外を問わず多くの人が利用する道路 	-	7	国道沿道軸	<ul style="list-style-type: none"> 沿道型店舗が点在 (チエーン店は少数) 生活に密着した店舗等、白馬らしい郊外型店舗の景観 	<ul style="list-style-type: none"> 道路景観へ配慮しつつも産業振興を主眼に置く 道路からの北アルプスの眺望可能な場所 (橋、交差点など) は基本的に保全 	
			<ul style="list-style-type: none"> 国道406号 県道33号 村道0105号 北アルプスを望むことができ来訪者が多く利用する幹線道路や地元住民が利用する生活道路 	-	8	眺望道路軸 A	<ul style="list-style-type: none"> 白馬連峰、スキー場、田園風景など視界が広がり白馬らしさを感じる道路 スキー場、ジャンプ競技場は目印となる 	<ul style="list-style-type: none"> 白馬連峰、スキー場、田園風景などの眺望を保全 道路からのゆとりの確保や道路側から見えるものを制限するなど道路景観へ配慮 	
			<ul style="list-style-type: none"> 北アルプスを垂直に望むことができ集落形成のある道路 	-	9	眺望道路軸 B	<ul style="list-style-type: none"> 無電柱化計画路線のうち北アルプスを目前に望むことができる道路 	<ul style="list-style-type: none"> 白馬連峰の眺望を保全 道路からのゆとりの確保や道路側から見えるものを制限するなど道路景観へ配慮 	
			<ul style="list-style-type: none"> 姫川、松川、平川等 後立山連峰 (白馬三山) や周囲の緑・田園と調和した河川景観の形成 	-	10	河川景観軸	<ul style="list-style-type: none"> 水辺空間を通してアルプスからの清流を感じ、白馬連峰など良好な風景を望むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 白馬連峰や周囲の緑・田園と調和した河川景観の形成 	

表－ 2 (1/3) 地域区分別の景観形成方針及び建築物等景観形成基準設定の視点

景観形成方針の検討		景観形成基準の検討				
No 地域区分	【景観形成方針】 / 方針の説明	建築物・工作物の景観形成基準設定の視点				
		配置・規模	意匠・形態	材料	色彩	その他
1 山岳地域	<p>【白馬村の象徴である白馬連峰 全ての地域で映る景観として大切にす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白馬連峰の優れた山岳・水系景観を保全する。 ・白馬村の象徴として全ての地域の背景となる景観として意識する。 	<p>※自然公園法に基づく基準とする。</p> <p>自然公園内では、その景観や動植物の生息・生育環境を保全するため、一定の開発行為が制限されている。地種区分により、制限される内容、規模などが異なる。</p> <p>(中部山岳国立公園後立山地域管理計画書より抜粋)</p> <p>2 風致景観の管理に関する事項 (1) 許可届出等取扱方針</p> <p>工作物 (建築物)</p> <p>基本方針 周囲の自然環境と調和した形態、色彩等とし、用途に応じた適正な規模とする。</p> <p>構造意匠 外観は山小屋風 (屋根形状は原則として切妻、屋根勾配は 3/10~5/10) の単純簡素なものとする。</p> <p>材料色彩 建築物が目立たないように極力自然材料 (木・石/以下同じ) を用いる。</p> <p>色彩は屋根は焦げ茶色、壁は焦げ茶色又は茶色とする。</p>				
2 山林集落地域	<p>【山あいの自然環境と歴史ある暮らしが調和する景観を守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山麓斜面、稜線の自然景観を保全する。山裾の山林などは安易な開発により景観が阻害されないように配慮する。 ・山あいにある集落は、周囲の田園や山林などとの調和に努め、歴史的な集落は、雰囲気のある家並みの景観の保全に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物のまわりは、<u>緑化や堆雪を考慮して、空地を確保する。</u> ・<u>稜線部、斜面から突出した印象を与えないよう、配置を考慮する。</u> ・<u>周囲の山林や集落から著しく突出した印象を与えないよう、規模や高さを抑える。</u> ・建物の高さは2階建てまで 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>山並みに調和し、伝統的な建築物に揃えるよう、切妻などの勾配のある屋根とする。</u> ・<u>自然環境の中で違和感を与える大きな壁面とならないよう、凹凸や分節化を工夫する。</u> ・設備機器や付帯設備 (屋外階段、ベランダ、パイプ類) は、<u>煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>伝統的な風土や自然環境に調和するよう、できるだけ木材、石材などの自然素材、及び耐久性に優れた材料を使用する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>伝統的生活感や自然環境に調和する色を使用する。</u> ・屋根の色は低～中明度・低彩度 (建築外装色彩指針/東エリア) ・外壁の色は中～高明度・低彩度 (建築外装色彩指針/東エリア) 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>自然環境と調和する敷地内に優れた樹木や水辺がある場合は適切に保全する。</u>
3 田園地域	<p>【広がりのある田園と奥に見える山並み、緑に囲まれた集落の田園景観を守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の山並み、広がりのある田園、山裾の緑に囲まれ、白馬村の原風景といえる田園景観の維持に努める。 ・塩の道などの街道沿いでは、歴史的な雰囲気のある景観の保全に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物のまわりは、<u>緑化や堆雪を考慮して、空地を確保する。</u> ・<u>田園の中で著しく突出した印象を与えないよう、規模、高さを抑える。(低層を基本)</u> ・<u>白馬連峰など良好な眺望が得られる場所では、その眺望を阻害しないよう、道路から後退した配置とする。</u> ・建物の高さは3階建てまで 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>周囲の田園風景との調和するよう、地域の伝統的な形態・意匠等の活用に努める。</u> ・<u>周囲の田園風景と調和するよう、切妻などの勾配のある屋根とする。</u> ・<u>田園の中で違和感を与える大きな壁面とならないよう、凹凸や分節化を工夫する。</u> ・設備機器や付帯設備 (屋外階段、ベランダ、パイプ類) は、<u>煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>伝統的な風土や自然環境に調和するよう、できるだけ木材、石材などの自然素材、及び耐久性に優れた材料を使用する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>伝統的生活感や自然環境に調和する色を使用する。</u> ・屋根の色は低～中明度・低彩度 (建築外装色彩指針/東エリア) ・外壁の色は中～高明度・低彩度 (建築外装色彩指針/東エリア) 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>緑豊かな田園風景を演出するよう、建物周り、駐車場周りを緑化する。</u> ・<u>田園風景と調和する敷地内に優れた樹木や水辺がある場合は適切に保全する。</u>

表－2(2/3) 地域区別の景観形成方針及び建築物等景観形成基準設定の視点

景観形成方針の検討		景観形成基準の検討				
No 地域区分	【景観形成方針】 / 方針の説明	建築物・工作物の景観形成基準設定の視点				
		配置・規模	意匠・形態	材料	色彩	その他
4 中心市街地 地域	<p>【世界的なリゾートタウンの玄関口として、もてなし、賑わいを感じるまち並み景観をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界的なリゾートタウンの玄関口としてのもてなし、商業地としての賑わいを感じるまち並み景観の演出を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 店舗等の正面は、<u>まち並みの連続性と賑わいを演出するよう</u>、通りに面する壁面はできるだけ揃える。 <u>周囲のまち並みから著しく突出しないよう</u>、規模、高さを揃える。 建物の高さは5階まで 	<ul style="list-style-type: none"> 建築物の正面は、<u>自然環境と周囲のまち並みに調和するよう</u>、意匠・形態に配慮する。 1階の正面は、<u>商業地らしさと賑わいを感じるよう</u>、意匠や形態による演出を図る。 <u>まち並みの中で違和感を与える大きな壁面とならないよう</u>、凹凸や分節化を工夫する。 設備機器や付帯設備（屋外階段、ベランダ、パイプ類）は、<u>煩雑な印象を与えないよう</u>、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>周囲のまち並みと自然環境と調和するよう</u>、できるだけ落ち着いた耐久性に優れた材料を使用する。 <u>自然環境に配慮し</u>、反射光のある素材の使用は最小限とする。（1階のみ） 	<ul style="list-style-type: none"> <u>自然環境と調和し、落ち着きと統一感の感じられる色を使用する。</u> 屋根の色は低～中明度・低彩度（建築外装色彩指針/中エリア） 外壁の色は中～高明度・低彩度（建築外装色彩指針/中エリア） <u>賑わいを演出するアクセントとなる色彩は</u>、色彩相互の調和、使用する量に配慮する。 <u>店先、店内を演出するよう</u>、照明は温かみのある光源を用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>緑豊かなまち並みを演出するよう</u>、敷地内及び建物正面の緑化に努める。
5 観光地域	<p>【世界的なリゾートタウンとして誇れる山並みと森と建物が調和した優れた景観をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界的なリゾートタウンとして周囲の自然景観と調和し、白馬村らしさと賑わいを感じるまち並み景観の演出を図る。 まち並み景観は、ウィンターシーズンの雪景色と、グリーンシーズンの緑との調和に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物のまわりは、<u>緑化や堆雪を考慮して</u>、空地を確保する。 <u>敷地内に樹木や水辺が有る場合は</u>、これらを活かすように配置する。 <u>周囲のまち並みや樹林地から著しく突出した印象を与えないよう</u>、規模や高さを抑える。 建物の高さは5階まで 	<ul style="list-style-type: none"> <u>リゾートタウンとして、自然に囲まれやすさを感じるよう</u>、意匠・形態に配慮する。 <u>周囲の自然環境と調和するよう</u>、切妻などの勾配のある屋根とする。 <u>まち並みの中で違和感を与える大きな壁面とならないよう</u>、凹凸や分節化を工夫する。 設備機器や付帯設備（屋外階段、ベランダ、パイプ類）は、<u>煩雑な印象を与えないよう</u>、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>自然環境と調和するするよう</u>、できるだけ木材、石材などの自然素材、及び耐久性に優れた材料を使用する。 <u>自然環境に配慮し</u>、反射光のある素材の使用は極力用いない。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>自然環境と調和し、洗練された格調と落ち着きの感じられる色を使用する。</u> 屋根の色は低～中明度・低彩度（建築外装色彩指針/西エリア） 外壁の色は中～高明度・低彩度（建築外装色彩指針/西エリア） <u>賑わいを演出するアクセントとなる色彩は</u>、色彩相互の調和、使用する量に配慮する。 <u>自然環境と調和するよう</u>、建物周りの照明は設置場所に配慮しながら、温かみのある光源を用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>緑豊かなリゾートタウンを演出するよう</u>、建物周り、駐車場周りを緑化する。 境界に塀等の遮へい物は出来るだけ設けず生垣とする。 <u>自然環境と調和する敷地内に優れた樹木や水辺がある場合は</u>適切に保全する。
6 スキー場 地域	<p>【夏・冬ともに自然環境と見事に調和し、白馬村のシンボルとなるスキー場の景観をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界的なスキー場として、建築物や工作物、開発行為は、優れた自然環境との調和し、夏・冬ともに白馬らしいスキー場景観を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>稜線部、斜面から突出した印象を与えないよう</u>、配置を考慮する。 <u>周囲の自然環境から著しく突出した印象を与えないよう</u>、規模や高さを抑える。 建物の高さは5階まで 工作物の高さは既存施設まで 	<ul style="list-style-type: none"> <u>白馬山麓や周囲の自然環境に調和するよう</u>、意匠・形態に配慮する。 <u>自然環境と調和するよう</u>、切妻などの勾配のある屋根とする。 <u>自然環境の中で違和感を与える大きな壁面とならないよう</u>、凹凸や分節化を工夫する。 設備機器や付帯設備（屋外階段、ベランダ、パイプ類）は、<u>煩雑な印象を与えないよう</u>、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>自然環境と調和するするよう</u>、できるだけ木材、石材などの自然素材、及び耐久性に優れた材料を使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>自然環境と調和し、洗練された格調と落ち着きの感じられる色を使用する。</u> 屋根の色は低～中明度・低彩度（建築外装色彩指針/西エリア） 外壁の色は中～高明度・低彩度（建築外装色彩指針/西エリア） 	<ul style="list-style-type: none"> <u>自然環境と調和する敷地内に優れた樹木や水辺がある場合は</u>適切に保全する。

表－2(3/3) 地域区別の景観形成方針及び建築物等景観形成基準設定の視点

景観形成方針の検討		景観形成基準の検討				
No 地域区分	【景観形成方針】 / 方針の説明	建築物・工作物の景観形成基準設定の視点				
		配置・規模	意匠・形態	材料	色彩	その他
7 国道沿道軸	<p>【周囲の自然環境と調和した沿道のまち並み景観づくりと、田園風景を大切にしたい沿道景観を守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> 白馬村の幹線道路として、沿道における建築物や工作物、開発行為は、周囲の山並みや自然環境との調和するよう景観に配慮する。 白馬連峰、スキー場、田園風景などが見渡せる沿道区間に関しては、その眺望景観の保全に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 白馬連峰など良好な眺望が得られる場所では、その眺望を阻害しないよう、道路から後退した配置とする。 建物のまわりは、<u>緑化や堆雪を考慮して、空地を確保する。</u> <u>田園の中で著しく突出した印象を与えないよう、規模、高さを抑える。</u> 建物の高さは2階まで 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の田園風景との調和するよう、地域の伝統的な形態・意匠等の活用に努める。 周囲の田園風景と調和するよう、切妻などの勾配のある屋根とする。 田園風景の中で違和感を与える大きな壁面とならないよう、凹凸や分節化を工夫する。 設備機器や付帯設備（屋外階段、ベランダ、パイプ類）は、<u>煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な風土や自然環境に調和するよう、できるだけ木材、石材などの自然素材、及び耐久性に優れた材料を使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な生活感や自然環境に調和する色を使用する。 屋根の色は低～中明度・低彩度（建築外装色彩指針/東エリア） 外壁の色は中～高明度・低彩度（建築外装色彩指針/東エリア） 	<ul style="list-style-type: none"> 緑豊かな田園風景とするよう、建物周り、駐車場周りを緑化する。 田園風景と調和する敷地内に優れた樹木や水辺がある場合は保全する。
8 眺望道路軸 A	<p>【白馬連峰、スキー場、田園風景などが見渡せる道路として、沿道の眺望景観を守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> 白馬連峰、スキー場、田園風景などが見渡せる道路として、その眺望景観の保全に努める。 沿道に建築物や工作物を設ける場合は、広がりある眺望景観を阻害しないように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 白馬連峰など良好な眺望が得られる場所では、その眺望を阻害しないよう、道路から後退した配置とする。 建物のまわりは、<u>緑化や堆雪を考慮して、空地を確保する。</u> <u>田園の中で著しく突出した印象を与えないよう、規模、高さを抑える。</u> 建物の高さは2階まで 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の田園風景との調和するよう、地域の伝統的な形態・意匠等の活用に努める。 周囲の田園風景と調和するよう、切妻などの勾配のある屋根とする。 田園風景の中で違和感を与える大きな壁面とならないよう、凹凸や分節化を工夫する。 設備機器や付帯設備（屋外階段、ベランダ、パイプ類）は、<u>煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な風土や自然環境に調和するよう、できるだけ木材、石材などの自然素材、及び耐久性に優れた材料を使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な生活感や自然環境に調和する色を使用する。 屋根の色は低～中明度・低彩度（建築外装色彩指針/東エリア） 外壁の色は中～高明度・低彩度（建築外装色彩指針/東エリア） 	<ul style="list-style-type: none"> 緑豊かな田園風景とするよう、建物周り、駐車場周りを緑化する。 田園風景と調和する敷地内に優れた樹木や水辺がある場合は保全する。
9 眺望道路軸 B	<p>【北アルプスを目前に望むことができる道路、この眺望と調和した魅力的なまち並み景観をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北アルプスを目前に望むことができる眺望道路として、この眺望景観と調和した魅力的なまち並み景観に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 白馬連峰など良好な眺望を阻害しないよう、道路から後退した配置とする。 建物のまわりは、<u>緑化や堆雪を考慮して、空地を確保する。</u> <u>周囲のまち並みから著しく突出した印象を与えないよう、規模、高さを抑える。</u> 建物の高さは2階まで 	<ul style="list-style-type: none"> リゾートタウンにつながる沿道として、自然に囲まれやすらぎを感じるよう、意匠・形態に配慮する。 周囲の自然環境と調和するよう、切妻などの勾配のある屋根とする。 まち並みの中で違和感を与える大きな壁面とならないよう、凹凸や分節化を工夫する。 設備機器や付帯設備（屋外階段、ベランダ、パイプ類）は、<u>煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な風土や自然環境に調和するよう、できるだけ木材、石材などの自然素材、及び耐久性に優れた材料を使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境と調和し、洗練された格調と落ち着きの感じられる色を使用する。 屋根の色は低～中明度・低彩度（建築外装色彩指針/中エリア） 外壁の色は中～高明度・低彩度（建築外装色彩指針/中エリア） 	<ul style="list-style-type: none"> 緑豊かなリゾートタウンとするよう、建物周り、駐車場周りを緑化する。 自然環境と調和する敷地内に優れた樹木や水辺がある場合は適切に保全する。
10 河川景観軸	<p>【白馬連峰や田園風景などと一体となり、豊かな自然を感じることができる河川の景観を守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> 姫川、松川等は白馬連峰や田園風景などと一体となった景観をつくることから河川景観を保全する。 河川沿いの建築物や工作物については、広がる眺望景観を阻害しないように配慮する。 	<p>河川区域内は河川法や砂防法に基づく基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川法：河川敷地占用許可準則 抜粋（土地利用状況、景観及び環境との調整についての基準） 第十一 河川敷地の占用は、河川及びその周辺の土地利用の状況、景観その他自然的及び社会的環境を損なわず、かつ、それらと調和したものでなければならない。 砂防法：土石流や山崩れなどの土砂災害を防ぐための法律であり、砂防指定地内において以下の行為を行うには、知事の許可が必要となる。 砂防設備に工作物その他の物件又は施設を設け、継続して砂防設備を使用する行為/河川等に流入するおそれのある場所に、土石、砂れき類するものをたい積し、又は投棄/立竹木の伐採、樹根の採取/竹木の滑下又は地引きにより運搬/土地の掘削、盛土、切土など土地の形状の変更/土石若しくは砂れきの採取、又は鉱物の採掘芝草を掘り取る行為 				